

令和5年度 第2回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時	令和5年12月25日(月) 10:00~12:00	
開催場所	二宮町役場 第1委員会室	
出席者	委員	出席5名 大田 博樹 委員、高橋 哲夫 委員、成川 一 委員、 井通 隆正 委員、友野 恵美子 委員 欠席2名 渋谷 佳代子 委員、佐々木 栄一 委員
	町	政策部長
	事務局	政策部企画政策課3名
傍聴者数	0名	
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 (1) 二宮町総合戦略評価に対する意見等について (2) その他 4. 閉 会	
配布資料	資料1	施策に対する事前意見のまとめ
	参考資料1	12月25日の進め方及び論点について
	参考資料2	二宮町総合戦略評価に係る意見書の提出について (令和4年度) 抜粋

【議事要旨】

(1) 二宮町総合戦略評価について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

基本目標 1 ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

施策：公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出

○委員会における各施策の評価は、施策の内容に対するものであって、KPI の見直し等に関する意見は評価に影響しないという認識でよいか。

●そのとおりです。KPI の見直し等に関する意見は、施策の評価を決める要素には含まれません。

○今回の令和 4 年度の評価は、第 2 期総合戦略の最終年度になるが、すでに第 3 期総合戦略が始まっていることから、評価にあたって内容の整合を図るなど、何か特別な取り扱いはしないという認識でよいか。

●特別な取り扱いはしません。いただいたご意見は、今後の計画への反映を検討します。

○すでに第 3 期総合戦略が始まっており、各施策に対して新しい KPI が設定されているが、計画期間における各年度の目標値はどのようになっているのか。

●第 3 期総合戦略に記載されている目標値は、令和 9 年度における達成目標であり、年度ごとの目標値は、過去の実績からの積み上げによる試算や、基準値から目標値までを計画期間である 5 年間で均等に割った数値とすることを想定しています。各年度の計画値は、次年度以降の施策評価でお示しすることになります。

○東大果樹園跡地について、利用している団体や年齢層に偏りがあるように感じるが、どのような方が果樹公園を利用しているかの調査を実施する予定はあるか。

●利用者の分析を実施するとは聞いていませんが、東京大学果樹園跡地活用協議会の関係者が使用している印象が強いため、幅広い層が使用できる方策を検討するよう協議会に働きかけています。

○東大果樹園跡地でのイベントの来場者を見ても、古くから住んでいる町民の参加が少ないように感じる。新しい事業を始めるだけでなく、これまで続けてきて有効だった事業を継続し、それらを融合して進めるアイデアが行政になればいけない。

そのためにも、利用者等の分析が必要だと思う。

●各イベントにおける、出展者や利用団体は町に対して報告がされるので、その範囲であれば傾向の把握は可能であると思います。

◎新庁舎をはじめとする整備について、コンパクトシティを意識して推進すること、各 KPI は、施策の進捗を的確に把握できるものにする必要があるという旨を意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

施策：地域で支えあう体制の構築

◎伝統的なコミュニティシステムを維持することの難しさや、重要性が増している認知症予防や高齢者の見守りについて意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

施策：地域コミュニティの醸成支援

○自治会等の役員のなり手不足について、過去には地域で側溝清掃を実施していたことがあり、作業後の反省会を通じて親睦を深める場面などもあったが、今は多くの行事が縮小・廃止され、そのような場がなくなっている。

これからの人口減少を考慮すると、行政の立場としてもコミュニティ醸成の方策について、見直しを進めなければ自治会等の維持ができなくなる。

○自治会などが、どのようになり手を確保するかについては、どの自治体も課題として捉え、様々な取り組みをしていると思う。行政から他の自治会の取り組み事例を学ぶ場の提供などといった支援はできないか。

●二宮町には 20 名の地区長で構成する連絡協議会があり、今後、先進的な取り組みをしている自治体の視察や、同様の課題を有する近隣自治体の自治会と意見交換をする予定です。

○地域の通いの場は、高齢者が多く参加しており、地域のコミュニティにとって重要な役割を果たしている。

ただ、参加者のほとんどが女性であり、女性比率が多い場合は、男性が参加しづらい傾向にあるので、参考として地域の通いの場における参加者の男女比が分かるか。

●地域の通いの場は、地区社協部会が主催しているため、男女比等については、確認のうえ次回の会議でお示しします。

○第 3 期総合戦略では、「地域で支えあう体制の構築」と「地域コミュニティの醸成支援」が統合されているが、KPI にある「地域の通いの場の参加者」や「地域活動に参加している人」等を増やすため、町が町民参加のきっかけづくりを続ける必要がある。

●第 2 期総合戦略では、地域での高齢者や障がい者の支援及び、地域組織そのものについて、それぞれ別の施策としていましたが、第 3 期総合戦略では、施策を統合することで地域を盛り上げつつも要支援者をサポートしていくという視点に切り替えています。

◎自治会を含む地域コミュニティは、地域防災や高齢者の見守り、地域の農業・商業など、様々な要素で重要な存在となることから、コミュニティの運営について時代に合わせた見直しをする必要がある。

また、地域の方に積極的に参加してもらうための仕組みづくりについては、行政からの働きかけが重要である旨を意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

基本目標 2 新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる

施策：二宮らしい魅力の創出と発信

○「町観光入込客数」について、現在は推計値を使用しているが、より根拠として確実な KPI とするよう、実績値に近くなるような集計方法を導入したほうが良い。

●推計値を使用する場合は、そのことを明確にするとともに、推計値であっても、実績値に近い集計方法とするよう意見書にまとめます。

○観光まちづくり戦略に位置付けている取り組みは、総合戦略の施策と共通するものもあるが、個別の KPI を設定しているのか。

●観光まちづくり戦略では、「観光客数」「観光協会の利用者数」「観光協会 HP のアクセス数」「観光協会 SNS のフォロワー数」「観光消費額」「二宮ブランド登録数」の 6 つを KPI として設定し、PDCA サイクルを回すこととしています。

◎他自治体と同じような取り組みをしても、人の流れを生み出すことは難しいため、二宮らしい事業を考え推進していくこと。

また、図書館でのオンライン貸出を導入することについて意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

施策：特色ある教育活動の推進

○様々な自治体で英語教育の早期化を掲げているが、自動翻訳等の技術発展により、今後は必ずしも語学を学習する必要は無くなることが想定される。独自性のある教育を考えることは難しいかもしれないが、本当に必要とされることは、教養を身に付けることで人間力の向上を図ることである。

○第 3 期総合戦略の KPI に設定するとしている教育施策の認知度は、施策をただ知っているかを調べるものなのか。

また、施策の認知度はどのようにして測定するのか。

●今年度から施設分離型の小中一貫教育が始まっていますが、どのような教育か、また、それによって何が変わるのかなどについて、周知が進んでいないことが課題となっています。そのため、まず町民に町の教育施策を知っていただく必要があることから、認知度を KPI としています。

認知度は、毎年 1 回実施する郵送アンケートで小中一貫教育の認知度を測定していますが、ご指摘のとおり、施策の満足度までは測れていないため、別に KPI を設定することも考えられます。

◎大学の授業において、日本人の学生と海外からの交換留学生が英語でディベートする機会があるが、日本人の学生が言い負けてしまうことがある。

これからの国際社会で生き残っていくには、先ほどの意見のとおり、教養などを身に付けることが重要であることから、そのために子どものうちに教養や道徳を学ぶための教育に力を入れることは、二宮の特色になるのではないかと。

◎他自治体に負けないように英語教育は継続しつつ、新たな教育についても検討するよう意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

基本目標3 出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる

施策：妊娠から子育てまでの切れ目のない支援

◎資料にある個別の意見を意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

施策：仕事と子育ての両立支援

○第3期総合戦略で本施策に設定している KPI は、どれも行政側の目線で設定されており、施設の満足度など利用者側の気持ちを測る KPI がないので、新たに設定できないか。

●満足度等といった、利用者目線で測定することのできる指標について、追加可能な KPI を検討します。

◎資料にある個別の意見を意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

基本目標4 地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる

施策：地域商工業の活性化

◎本施策は、二宮ブランドの認知度が上がらないことが問題であり、要因として、商品の種類が多くないことや、町が力を入れている湘南オリーブの生産量が少ないことが考えられる。

○本委員になってはじめて二宮ブランドを知った。現在の限られた販売では、知る機会が少ないため、ブランドの認知度を上げるためには、スーパー等といった大型店舗や、多くの人の目に付く場所での販売等をしなければならない。

●現在、湘南オリーブは、地域団体商標登録の認定を受けようとしており、そのために県の協力を仰ぎながら周知に努めているところです。

ただ、生産量が安定しないという課題もあり、町内だけでなく広域で生産体制を整えることで安定化を図る取り組みも進めています。今後も町と観光協会連携しながら生産量や認知度向上に向けた方策を検討します。

○町内で生産や加工、販売の流れを確保できる体制を確立させなければ、オリーブや落花生のような町の特産品を残し続けることは難しい。

◎安価に販売することが難しい以上、特産品としての付加価値を高めることが重要であり、生産から販売まで行うのであれば、商店街の振興も必要ではないか。

○商店街の振興は、商店街側にすべてを任せる方法では成り立たないため、誰が先頭に立って推進するかを明確にし、観光協会や商工会、行政が連携する必要がある。

●商工業の振興には、町のサポートが不可欠であるため、町の対応を望む旨を意見書

にまとめる。

○例えば、栄通りの商店街は独自でイベントを開催しており、コミュニティの形成に寄与していると捉えられるので、商店街をひとつのコミュニティとみなし、行政からこれまでできなかった支援を実施することも考えられる。

そうすれば、行政が高い委託料でイベントを開催しなくても、地域を良く知る事業者等で商店街の活性化を図る取り組みを推進することができるのではないかと。

◎地域の活性化のため、外部の広告代理店に委託して事業を実施する事例は、地域の実情を知らない業者が焼き増しのイベントを実施するだけになってしまい、その場限りの結果だけを残して終わってしまうことが考えられる。

○第3期総合戦略では、キャッシュレス決済の導入について明記されているが、これに関連するKPIが存在していないため、改めて設定する必要があるのではないかと。

●現時点では、対応について商店連合会等と調整中であり、導入時期や目標が具体化していないため、KPIとしての設定が難しい状況です。

ただ、今後、議論が進めば、KPIに設定することも検討できると思います。

◎商店街を一つのコミュニティとして発展を支援することや二宮ブランドの認知度の向上、キャッシュレス決済の導入について意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

施策：地域農林業の活性化

○湘南オリーブの地域団体商標登録は、確実に受けられるのか。

また、受けられるのであれば、いつ頃になる見込みなのか。

○特許庁に申請はすでに済ませているが、それが受け入れられるかは現時点では未定となっている。ただ、申請後に特許庁から周知が足りないと指摘を受けているので、東京都にある渋谷キューズでのイベントを開催しており、来年1月には東京都恵比寿のマルシェや小田原駅の地下街での販売会も行う予定となっている。

また、先ほどの意見でもあったスーパー等の大型店舗での販売については、これまで年に数回ほど、西友やザ・ビッグでオリーブ関連の商品の販売会を行ったことがある。

◎湘南オリーブをはじめとした特産品の認知度や販売数を高めるための支援が必要であることを意見書にまとめ、評価は「継続実施」としてよいか。

(異議なし)

(2) その他

・次回会議は1月24日(水)の予定です。開催通知は、後日改めて送付します。

(主な意見交換等)

特に意見無し

【以 上】